

(行政視察・政務活動・議員研修) 報告書

平成31年 2月19日

白石市議会議長 志村 新一郎 殿

議員氏名 佐藤 秀行

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	平成31年 2月 4日(月) ~ 2月 5日(火)
調査・研修先	東京立川市役所 自民党本部 衆議院第二議員会館 他
調査事項 (研修事項)	東京女子体育大学・東京女子短期大学との連携事業について 自民党本部訪問 予算委員会傍聴 西村代議士と情報交換
対応者・講師等	・立川市産業文化スポーツ部 スポーツ振興課長 久保 義彦 オリパラ室長 下河辺 康 スポーツ振興課長 石川 勝則 議会事務局次長 川瀬 成樹他
概要 ① 背景・目的 ② 内容・特色 ③ 主な質疑 ④ 考察 (感想、課題、 政策提言等)	去る2月4日(月)から5日(火)まで、2日間(1泊2日)の研修を行った。 初日は立川市役所において、「東京女子体育大学・東京女子体育短期大学との連携事業について」行政視察を行った。 立川市は、東京女子体育大学・東京女子体育短期大学と相互の発展及び充実を図り、文化・教育・学術・スポーツ・地域振興・まちづくり等の分野において、地域の発展と人材の育成に寄与するため、包括的な連携・協力に関する協定を平成27年3月9日に締結している。今回、本市と立川市がペラルーシ事前合宿の受け入れ自治体というつながりがあり、大学との連携事業において先進的な取り組みを実施していることから、行政視察を行うものである。内容として主に次の4点を中心に話を伺った。(1)事業の経緯 (2)具体的な事業内容及び特色 (3)事業実施における成果・効果 (4)事業の今後の課題等である。 経緯・概要について、平成25年の東京都国体開催時、東京女子体育大学と立川市が共同で、「ゆりーと体操」の地域への普及を行った。このことをきっかけに、「東京女子体育大学・東京女子体育短期大学と立川市との連携・協力に関する連絡協議会」を設置し、現在に至っている。文化、教育、学術、スポーツ、地域振興、まち



づくり等の分野で包括的な連携・協力により、相互の発展及び充実を図り、ともにまちづくりを進めていく強固なパートナーシップの基礎とするため、協定を締結した。協定に盛り込まれた事項は、スポーツ振興、オリパラ、地域振興・まちづくり、人材育成、学術研究、教育、生涯学習、健康、災害対策に関することなど多岐に及ぶ。これらの事項を実施するために、学長や市長などで構成する「連絡協議会」と、関係部署の課長職で構成する「連絡協議会幹事会」を設置した。

具体的な事業内容及び特色について、市が行う事業に、大学より講師として教授等の派遣をいただいたり、学生ボランティアの協力をいただくことや、大学が実施する事業や教室を、市報でお知らせすることや会場の提供等を実施している。また、大学と市との連携事業の実績と予定を報告することで、連携の確認と新たな連携の開始を容易にしている。平成29年度の実績について、オリンピアンの講義・実技指導で、教員の派遣。生涯学習支援で、学生の派遣。幼児、小学生、高校生、成人講座への講師派遣などの各種事業が多数行われている。

事業の今後の課題等について、連携・協力に関する協定の中心的な目的は、「オリンピック・パラリンピック等国際競技大会開催に伴う気運醸成に関すること」である。大会終了後、スポーツに係る大きなイベントが無くても、市民のスポーツに対する関心を継続できるように、連携・協力を継続してゆくことであるとしている。

ベラルーシ共和国との関係については、子どもたちに記憶に残る取り組みをしてあげたいとしている。例えば、給食でベラルーシの食事を提供する、ベラルーシの国を紹介する展示をするなど。また、ベラルーシ共和国のリーフレットを作成中である。白石市では、キューブで新体操の演技を市民に公開しているが、立川市では現実として難しいようである。ファンクラブについても、現在はなく今後考えていきたいということである。2020年のオリンピック開催時には、観戦チケットの課題もあるが、白石市と一緒に市民を募つて応援に行きたいと考えている。

このようなことから考えるに、本市においても、大学とまた大学生との交流を、今後ともスポーツ、文化、芸術、教育などの分野で交流を深めていくこと、更に新しく他の大学との連携・協力も重要であると考える。交流人口の拡大、地域の活性化にも大きく貢献できるのではないかと思う。

	<p>2日目は、自民党本部訪問し、総裁室等を見学した。その後、衆議院第二議員会館に移動し、予算委員会を傍聴した。国民民主党の玉木雄一郎議員の質疑であった。その後、西村代議士と情報交換、懇談を行った。</p>
--	---